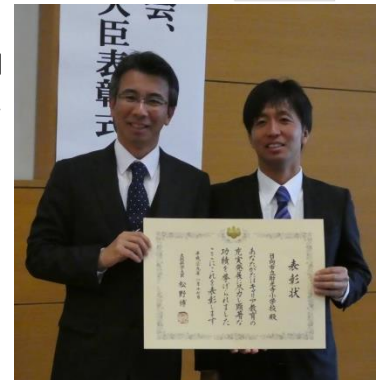




「第 10 回キャリア教育文部科学大臣表彰」受賞！

学校の部 日向市立財光寺小学校

財光寺小学校では、学校経営の根幹にキャリア教育を据えて、日向商工会議所（日向市キャリア教育支援センター）と連携して、外部人材（よのなか先生）を登用した「よのなか教室」を活用した取組などを展開している。当校では、5つの力（つながる力、分かる力、創る力、やりぬく力、グローバル・グローバルと郷土愛）を身に付けさせていくことを目指し、それを達成するために様々な切り口から授業を進めている。当校では、学校に勤務する全ての教職員がキャリア教育の推進に携わっており、カリキュラムを学校の実態に即してマネジメントし直し、ストーリー性のある実践的な指導を日常的に展開している。



「第 6 回キャリア教育推進連携表彰」（経産省・文科省）受賞！

最優秀賞 日向商工会議所

本団体は、「日向の大人はみな子供たちの先生」を合い言葉にして、働く大人（よのなか先生）が子供たちに本気で「働く喜びと苦労」を語りかける授業を行うとともに、「よのなか先生」に対する研修会等を実施するなど、学校だけでなく、企業や行政、地域などを巻き込み、産・学・官をあげてキャリア教育の推進に取り組んでいる。

奨励賞 講師派遣事業 延岡市推進委員会

本団体は、「キャリア教育」「ふるさと教育」「理数教育」の3つを切り口として、ものづくり分野で活躍する企業で働く人を中心に講師として小・中学校等に派遣し、ものづくりや科学技術に関する実験・実習等を通して、児童生徒の地元産業の理解促進等につながる取組を行っている。



担当者

教育支援課 教育支援担当

の眼

キャリア教育に関する全国表彰制度として、以下の3つがある。

- (1) キャリア教育アワード(経済産業省)…企業等が実施する教育活動について、先進的な取組を表彰
- (2) キャリア教育推進連携表彰(経済産業省、文部科学省)…教育関係者と産業界や地域社会が相互に連携・協働しながら取り組んでいる先進的な活動を表彰
- (3) キャリア教育文部科学大臣表彰…キャリア教育の充実発展に尽力し、顕著な功績が認められる学校や団体等を表彰

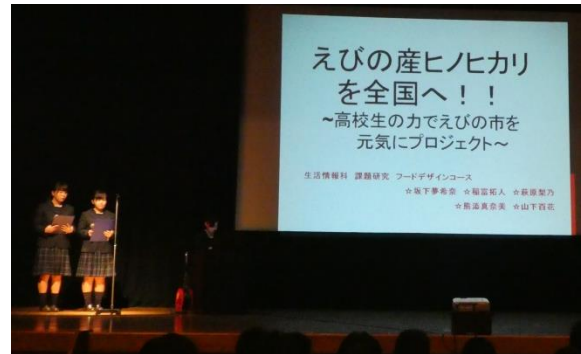
日向商工会議所、延岡市推進委員会及び日向市立財光寺小学校の受賞は、県内においてキャリア教育を推進している学校や団体にとって、大きな励みとなるものであった。特に日向商工会議所(日向市キャリア教育支援センター)は「日向の大人はみな子供たちの先生」という合い言葉のもと、3年間にわたって組織的・計画的に「よのなか教室」の普及に取り組み、最優秀賞という全国で唯一の賞に輝いた。日向商工会議所が行っている地域や企業の人材を学校にコーディネートするモデルが、県内各地により一層波及していくことを期待したい。

県立高校では、研究成果の発表会が行われています

GLOCAL 学習成果発表会 飯野高校 普通科、生活情報科 第3学年

中高生や保護者など約350人が見守る中、GLOCAL 学習成果発表会が行われた。

- (1) LCA (地域貢献活動) …普通科総合コースの生徒が地域学 (地域貢献活動) での学びを発表
 (2) 地域交流活動研究発表…生活情報科の生徒が、専門科目と地域学における研究成果を発表



- (3) 地域探究活動研究発表…普通科探究コースの生徒が、地域学で学んだグローバル！な研究成果を発表



「野生鳥獣である鹿の活用～環境保全から未来のえびの市を考える～」では、3名の生徒が、シカの個体数が増加して農林業に深刻な被害をもたらしている現状改善に向けた探究を進めながら、有効活用策として考案したシビエ料理開発や革製品のブランド化への提言を堂々と発表した。鳥獣被害の実情と、資源として活用する可能性とを伝えたこの発表は、『日本の環境を守る若武者育成塾 (アサヒビール主催)』で全国2位に当たる優秀賞を獲得した！

※GLOCALとは、GLOBALとLOCALを掛け合わせた造語で、Think globally, act locallyという考え方

総合学科実践研究発表会 都農高校 総合学科 第1、2、3学年

保護者や都農中学校の生徒 (2年生) が見守る中、総合学科実践研究発表会が行われた。都農高校が取り組んでいるキャリア教育についての説明後、1年生が『産業社会と人間』『職業調べ』『地域インターンシップ』について、2年生が『キャリアプランニング』『セルフプロデュース・インターンシップ』について、3年生が『課題研究と就業体験』についての発表を行った。



「私の幸福感が最大になった瞬間の写真です。農業のきつさの中にある“楽しさ”を見つけてしまえば、苦ではなくなることが分かりました。」

担当者

の眼



2校の県立高校の発表に共通するのは、地域社会と密接に連携して取り組んでいる点である。初めは恐る恐る地域 (職場) に繰り出していた生徒たちであるが、次第に地域 (職場) に溶け込み、真剣に課題に向き合っていた (悪戦苦闘する)。地域の人々から愛され、必要とされる経験を通して、少しずつ地域愛が芽生え、地域に貢献していこうとする気概が生まれていることが伝わる内容であった。また、地元の中学生も発表会に参加することで、今の学びがどのように生かされていくのか (プレゼンテーション力も含め) が理解できるものであった。2校の発表で特に優れていたのは以下の点である。

- ① **飯野高校** 自らが最初に抱いていた地域の課題について、実際に地域に足を運んで解決を探る中で、解決の方策は一つではないことを知り、多数の仮説を導く中で、自分たちができることは何かを真摯に考え、地域の方々の力を借りることで、少しずつ解決の糸口を発見していった点。
- ② **都農高校** 都農高校で取り組まれているキャリア教育について、3年間でどのようなことを学べるのか、また地域 (職場) で学ぶことで、どのように成長していくことができるのかが、分かりやすく説明されていた点。

教育支援課 教育支援担当